

第1回行方市庁舎建設市民会議

1 開催日時：2019年12月12日（木）14時00分～16時00分

2 開催場所：行方市情報交流センター会議室

3 出席者

- ・行方市庁舎建設市民会議委員20名（委員2名が欠席）
- ・市：鈴木市長、武内副市長、政策推進室職員4名
- ・コンサル：株式会社三上建築事務所4名、株式会社日本総合研究所1名

4 内容

別紙次第に沿って、第1回市民会議を行った。内容は次のとおり。

1. 委嘱状交付

鈴木市長より、市民会議参加者（代表で1名）へ委嘱状を交付。

2. 市長挨拶（要旨）

- ・市民会議の委員に就任をいただいた御礼。
- ・庁舎建設に係る基本構想・基本計画の策定に関わっていただく。（庁舎のあり方、新庁舎の必要性、どのような庁舎を建設していくかなどの議論）
- ・庁舎の建設よりも、『総合戦略』、『公共施設等総合管理計画』、『経営戦略』などを作成し、どのようなまちづくりをしていくか、どのような市民サービスを提供していくかを優先して決めてきた。
- ・職員にも、ただ、庁舎という『ハコモノ』を建設することを考えるのではなく、『どのように市民生活の安全を守っていくか』、『庁舎が一つになることで不便を感じる市民に、どのようなサービスを提供していくか』、『どのように効率的な行政運営を図っていくか』など、これからまちづくりを優先的に考えるよう話してきた。
- ・市民会議では、将来、行方市をどのような街にしていくか、市民サービスをどのように向上させていくか、ということを考えて議論してほしい。
- ・また、現在の防災体制、現庁舎が防災の拠点となっているかなどを確認していただき、防災の拠点としてどのような機能が必要か議論してほしい。

3. 自己紹介

各委員より自己紹介、事務局紹介。

4. 委員長・副委員長の選任

事務局に一任で異議なし。次の通り決定した。

『委員長：海老澤委員』、『副委員長：橋本委員』

5. 議題について

- (1) 「行方市庁舎建設市民会議設置の概要説明」について、資料に基づき事務局より説明。

◇事務局：本会議は基本的に公開にしていきたい。第2回の会議までに委員長と調整して傍聴規程を策定していく予定。

- (2) 「市の上位計画と庁舎の関連性」・「まちづくりと庁舎について」について、資料に基づき事務局より説明。
- ◇委員：5つの重点プロジェクトは、どんなものか。また、官民連携事業の事例等を提示してほしい。
- 事務局：5つの重点プロジェクトとは、平成27年度に策定した総合戦略書に記載している。具体的には「働く場の拡大プロジェクト」、「健康で文化的なまちプロジェクト」、「住みやすい地域プロジェクト」、「みんなで育むプロジェクト」、「情報発信で日本一プロジェクト」の5つ。参考までに総合戦略書を配布する。
- 事務局：行政サービスの一部を民間（民間事業者）の力を借りることで、より良いサービスを効果的に提供する事業が官民連携事業である。市民サービスの質的向上だけでなく、公共施設の建設費や運営費・維持管理費を抑える等のメリットがある。また、市の公共施設である「白帆の湯」は、市で建設したものだが、運営は民間が指定管理で行っている。これから市の大きな事業については官民連携の可能性を積極的に検討していく。
- ◇委員：行方市が合併した際、新しい庁舎を建てるのであれば、なめがた地域医療センター近くが良いと思っていた。
- ◇委員：防災拠点は庁舎を整備するうえでのポイントである。地震や大雨等に対応できる整備が必要である。庁舎が崩れないことはもちろん、情報の出し入れに不具合が出ないようにする。市民の命を守ることと庁舎整備との関係性を考えていきたい。
- ◇委員：行方市では新しく高速道路が整備され、人と物の流れが変わり、お金も動くようになる。実際、りんりんロードを整備したことでサイクリング目的に行方市に来られる人が増えている。
- ◇委員：庁舎が中核であり続けるためには何が必要か。また、何があれば「防災拠点」でありうるのか。今の職員の働き方が非効率であるならば、職員の働く場として適切なステージを用意しなければならないと思う。我々はどうしても旧3町の区分に囚われがちだが、市全体で次の世代につなぐため必要なことを議論していきたい。
- 事務局：広域化の流れの中で、行方市ができるだけ他市をリードできるような存在になるためには、行方市自体が1つになっている必要があると思っている。旧町の3地域は、地域ごとの特性を活かして、それぞれが発展をしつつ、行方市としては1つにまとまっている姿をイメージしている。何があれば「中核」となるのか、また、何があったら「防災拠点」になりうるのかは会議の中で議論していきたい。職員の働き方については、パソコン等の情報通信技術を有効に活用できていなく、非効率な働き方をしているという意味で記載している。職員が市民と向き合う時間を作るためにも生産的な働き方をする必要がある。
- (3) 「現庁舎の現状と問題点、新庁舎の必要性」について、資料に基づき事務局より説明。
- ◇玉造庁舎の窓口スペース、隣のお客さんの声が丸聞こえでプライバシーに配慮した造になってない。また、雨風の強い日に出入りすると中まで入ってきてしまう。
- ◇委員：建物はいずれ古くなるが、どのくらいのスパンで使い続ける想定なのか。
- 事務局：一般的には鉄筋コンクリートの建物の耐用年数は60年となっている。現在では建設費用・維持管理費用・解体費をトータルで捉えたライフサイクルコストを考えていくことが重要である。

(4) 「新庁舎の基本方針と基本理念について」について、資料に基づき事務局より説明。

◇委員：老朽化の話があったが、悪くなる前に予防保全をしていくことが重要である。各庁舎はもともと狭いわけではなく、書類にあふれて手狭になっていると感じる。庁舎の現状を分かりやすく数値化してほしい。市の財政状況についても、バランスシートのような数値化した資料を提示してほしい。

→事務局：市では文書管理規定があるが、担当者によって文書管理の仕方も変わってしまい、ルールが徹底できていない。文書が増えることで物も溢れてしまっている。数値化できるものは積極的に提示していく。

(5) 「今後のスケジュール」について、資料に基づき事務局より説明。

◇委員：スケジュールに関係ないが、庁舎建設で一番の問題は位置だと思う。合併した際は市の中心に建設するとなっていた。市の中心には、なめがた地域医療センターがあるが、病院機能の規模縮小という話もある。庁内の検討委員会では、その点についても検討を進めてほしい。

(6) その他

◇委員：潮来市との合併の可能性を聞いたことがあるが、庁舎建設を考える上で、その点で考慮しないのか。また、庁内の検討委員会で、合併の話は出でていないのか。

→事務局：庁内の検討委員会の中で、潮来市と合併するような話は出でていない。広域化を踏まえた視点での議論はあるが、潮来市との合併についてはあまりにも具体性がないので議論はしていない。

【事務局からの事務連絡】

- ・会議の進め方や資料に関すること等、個人の意見でも、団体の意見でも、地域の意見でも構わないので、別紙の『意見提案書』に意見・提案を記載し、12月25日までに投函してほしい。
- ・謝礼については、市の規定に基づいて支払うので、口座登録されていない委員は、別紙の口座振替払申出書に必要事項等記載のうえ提出してほしい。
- ・次回以降の開催会場は、麻生庁舎ばかりではなく、北浦庁舎や、玉造庁舎での開催を企画している。
- ・近隣自治体で近年、庁舎を整備したところに見学に行くことを企画している。受入れの自治体が決まったら連絡する。

以上